

水稲生産は健苗育成から

現在、消毒又は浸種中のことと思われませんが、浸種中の水温が低く（5℃程度）経過する場合は、お湯を足すなどして水温8℃～10℃程度を確保するよう心掛けてください。また、催芽前に予備催芽（20℃前後）を、24時間程度実施する方法もありますので参考にしてください。その場合、催芽時の出芽が早まることもあるため、こまめに催芽状態の確認をしてください。

1. 播種時の苗立枯病・苗いもち病対策[1L/箱散布]

- 1) 床土にタチガレエースM粉剤等を混和していない場合は播種時に液剤を灌注してください。
- 2) 床土に焼土を使用している方や苗箱まかせを使用している方については、播種時の灌水量をやや多め（1L/箱当り）にし、乾燥障害（出芽ムラ）を防いでください。

薬剤名	希釈倍率	1箱当り散布量	散布箱数	備考
タチガレエースM液剤 500ml	1,000倍	1 L	500箱	苗立枯病
ベンレート水和剤(赤袋) 500g (エコホーフ [®] を使用する場合は2.0葉期以降に灌注)				苗いもち病

- 3) 灌水時のpH調整として、クエン酸を使用する場合は1,000倍に希釈する。

◆箱粒剤による葉いもち病の防除

薬剤名	使用時期	施用量	包装単位	備考
ルーチン粒剤	播種時～田植当日	30g	1kg・10kg	葉いもち病
Dr.オリゼ箱粒剤	緑化期～田植当日		1kg	
※ オリゼメート粒剤	田植3日前～田植前日		3kg・10kg	

※ オリゼメート粒剤については、6月末頃までの効果しか得られません。

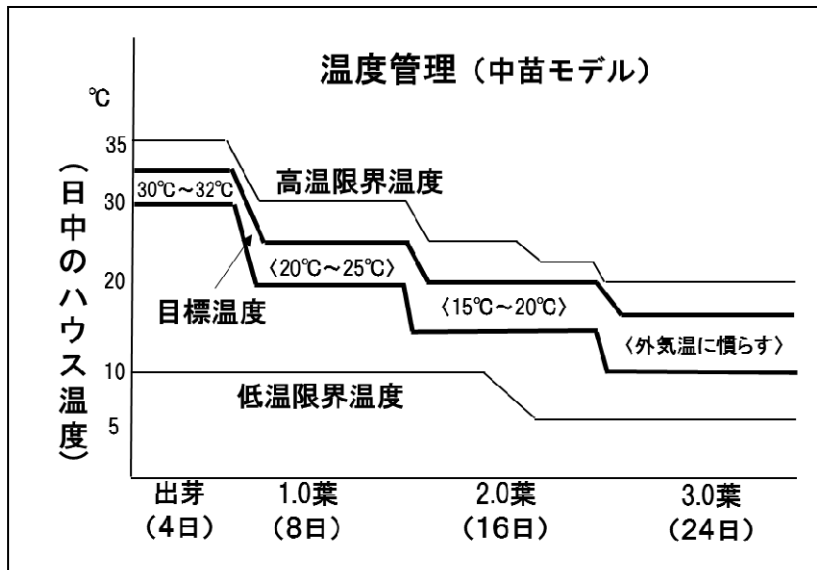
※ 今年は予約分以外のオリゼメート剤、ルーチン剤の在庫はほぼありません。

2. 発芽後の苗立枯病対策[500ml/箱散布]

- 1) シルバーポリ等の保温被覆資材の除去時・除去後は、つぎの点に注意を払いながら管理にあってください。
 - ①保温被覆資材の除去直後に床土の表面にクモの巣状のカビが見られたら、速やかに表面を乾燥させる。
 - ②保温被覆資材は発芽状態を確認しながら、出芽長0.5cmを目安に(3日～4日程度)除去する。被覆中でも被覆内の地温が40℃以上の場合は、風下の側面ビニールを開け、温度が下がらないようであれば、風上も10cm程度開けハウス内の換気を行い夕方閉める。
- 2) 立枯れ症状が見えた場合は菌の種類を確認のうえ、下記の薬剤散布で防除に努めてください。

病原菌の種類	原因や症状等	薬剤名	希釈倍率
フザリウム菌	低温が原因。根や苗の地際部が褐変腐敗し、生育ムラや枯死する。籾の周囲に白やピンク色のカビが見え、根は茶色くなり発根が停滞する。	タチガレエースM液剤	500
ピシウム菌	低温多湿が原因。カビは見えないが、地際の茎や根がアメ色や茶色に変色腐敗する。育苗後半のムレ苗の原因でもある。		
トリコデルマ菌	土の乾燥が原因のひとつ。土の表面や籾の周辺に白や緑色のカビが見える。エコホーフ菌と区別し辛い。感染苗は発根が停滞し、葉が黄化する。比較的発症は少ない。	ベンレート水和剤	500～1,000

3. ハウス内の温度管理



1) 保温被覆資材を長くかけ過ぎると、苗立枯病や靱枯細菌病の発生原因になるとともに、鞘葉並びに第2葉が伸び過ぎ、徒長軟弱苗の原因ともなります。特に靱枯細菌病は、1葉期までの高温多湿により発生が多くなるため、高温時には換気に努め、くれぐれも高温(ハウス内温度で30℃以上)多湿条件にしないよう注意してください。

2) 灌水は午前中1回のみ十分に行う。午後の灌水は夜間に床土の温度が低下するため行わない。

3) 緑化期以降は、急激な温度変化や冷風・過湿条件で、ムレ苗や風ヤケ等苗障害の原因となることから、日中25℃以上、夜間は5℃以下にしないよう換気や保温に努める。

※ふ割れ種子が多い場合は、緑化期以降の立枯れ病を注視し、症状が見られたら前述薬剤を散布する。

4. 追肥の時期

中苗で1.5葉期～2.0葉期に1回目の追肥を行い、2回目の追肥は1葉増えた時期(約1週間後)に実施する。

◎液肥による追肥 [500ml/箱散布]

液肥による追肥は、窒素・りん酸・加里の成分を合計した量が箱当たりおよそ1g前後になるようにする。◇使用倍率及び散布箱数：100倍 (水100Lに液肥1L:200箱分)

※なお、軟弱苗の場合は200倍に希釈して使用してください。

液肥名	成分量(%)	単位(1缶)	1缶当り希釈水量	散布箱数
液肥1号	12-5-7	20L	2,000L	4,000
液肥2号	10-4-8	5L	500L	1,000

◎硫酸による追肥 [1袋(20kg)で約4,200箱分]

現物量で1箱当り4.8g(N成分量で約1g/箱)

追肥が終わったら、直ちに散水して葉身を水洗いし、肥料ヤケを防いでください。

◎サイコー11号による追肥 [1袋(15kg)で約3,850箱分]

現物量で1箱当り3.9g(N成分量で約0.5g/箱)

サイコー11号の追肥で、N成分量を多く施用(1.0g前後/箱)した場合、箱の縁周辺主体に濃度障害を生ずる危険性がありますので、基準量を順守のうえ、追肥にあたってください。追肥後は、直ちに散水して、肥料ヤケを防いでください。

5. 圃場の基肥N施肥基準

一般的な水稻連作圃場の基肥N施肥量については下記のとおりですが、この施肥量についてはあくまでも参考とし、各自の圃場の地力等を考慮に入れながら最終的な基肥N量を決定してください。

※ [砂地で1.0kg増]

項目	品 種 名					
	あきたこまち	ひとめぼれ	めんこいな	ゆめおぼこ	きぬのはだ ときめきもち	たつこもち ちほみのり
N施肥基準	4.0～4.5kg		5.0kg		5.5kg	6.5kg